第６回瀬戸市基本構想審議会　議事録

１　日　時：令和８年９月８日（火）午前１０時から１１時５５分まで
２　場　所：瀬戸市役所　北庁舎４階庁議室
３　出席者：瀬戸市基本構想審議会委員１２名（うちオンライン参加３名）
【会長】　石川　良文　（南山大学総合政策学部　教授）
鷲見　英利　（株式会社官民連携事業研究所）
林　ともみ　（ラジオサンキュー／瀬戸市障害者地域自立支援委員会）
蔵地　真弓　（大橋運輸株式会社）
神田　すみれ（多文化ソーシャルワーカー）
梅村　佳範　（朝日インテック株式会社）
浦田　真由　（名古屋大学情報学部　教授）
伊藤　和真　（株式会社 PoliPoli）
吉澤　克哉　（東海旅客鉄道株式会社）
野々垣　賢人（瀬戸くらし研究所／株式会社きんつぎ）
堀部　篤樹　（愛知産業大学通信教育部造形学部　准教授）
水谷　香織　（名古屋学院大学現代社会学部　准教授）
瀬戸市副市長　大森　雅之
事務局（瀬戸市企画部政策推進課）６名
４　欠席者：委員
石川　圭一　（土街人プロジェクト／株式会社双寿園）
５　傍聴者：３名
６　議題及び議事内容：以下のとおり

発言者	内　容
１　開会（副市長あいさつ）	
副市長	本来であれば市長が出席する予定であったが、やむを得ない事情により、急遽出席することとなった。これまでの審議内容については随時報告を受けており、本日、委員の皆様のご意見を直接伺えることを大変うれしく思っている。 今回で６回目の開催となるが、これまでの議論を通じて多くの内容がまとまってきた。前回審議いただいた将来像についても、大変魅力的で素晴らしいものに決定したと感じている。 この計画は、子どもから高齢者まで幅広い市民に分かりやすく伝わることが重要である。２０４０年を迎えたときに、この計画をつくって良かった、瀬戸市がより良いまちになったと感じていただけるよう、市民の皆様とともに進めていきたい。 本日は、基本構想についてご審議いただき、基本計画についてご報告する。今後予定しているパブリックコメントも見据え、忌憚のないご意見をお願いしたい。
２　協議事項 ⑴　基本構想　構成イメージについて	
事務局	（資料１及び参考資料１の要点を説明）

発言者	内　容
石川会長	前回の審議会から資料の構成が変更されている。構成全体の流れが分かりやすいか、将来像に込めた思いが伝わる構成になっているか、また、読み手が２０４０年の瀬戸を考えることができる内容になっているかという観点から、ご意見をいただきたい。
水谷委員	将来像の文章について、非常に思いが伝わってくる内容になっており、行政の文章らしくないと言うと語弊があるかもしれないが、とても共感しながら読むことができた。 「化学変化」を起こし、一つの決められた答えに皆で向かうのではなく、それぞれが反応し合い、どのような未来になるか分からない中で未来を描いていこうという姿勢も、非常に思い切っていて良いと感じた。 その上で、前回も申し上げたが、人口推計についてはもう少し長期的な視点を持っても良いのではないか。２０４０年を見据えるのであれば、さらにその先を見た上で、２０４０年頃までに何を実現しておかなければならないのかを考える必要がある。 現在は２０５０年までの人口推計が示されているが、瀬戸の歴史については１０００年以上という長い時間軸で捉えている。冊子に掲載するかどうかは別としても、さらに長期的な人口変動について把握し、それを踏まえた上で２０４０年を考えることが大切ではないか。 また、人口減少や高齢化を、必ずしも暗いものとして捉える必要はなく、それを前提として変化を楽しんでいくという考え方で良いと思う。
堀部委員	これまで議論を積み上げてきて、非常に良くなっていると感じた。今回新たに追加された「まちの仕組みを整える」「まちのかたちを整える」についても、今後の瀬戸を考える上で必要な内容である。 「築４０年を経過した公共建築物が約 48.7%」とあるが、右側の「暮らしを支えるサービスの必要性」には２０２５年度と記載されているため、公共建築物についても、どの時点の数字なのかを示すと分かりやすい。 基本構想に直接書く内容ではないかもしれないが、公共施設の中では学校が大きな割合を占めており、人口減少や少子化に伴い、今後、統廃合なども考えなければならない。その際には、市民にも参画いただきながら一緒につくる姿勢が重要である。 私自身、様々な地域で学校づくりに関わっているが、一つの学校だけではなく、市全体としてどのような教育を展開するのかを考え、その中で施設を整備する必要がある。例えば保健室であれば、担当する一人の養護教諭の意見だけでなく、養護教諭が集まる場であり方を考える。学校図書館についても、司書が集まり議論する。そうした市全体で考える仕組みがあると良い。 ここに具体的に書くかは別として、市全体で教育や施設のあり方を考え、市民とともにつくっていく視点を大切にしてほしい。
神田委員	以前の資料と比較すると、デザインが非常に明るくなり、良くなったと感じた。 その上で、この基本構想は誰に向けたものなのか、誰が読むものなのかを考える必要がある。全ての市民に知っていただき、皆で共有して２０４０年に向かっていくものであるならば、高齢者、外国人、障害のある方などにも「自分たちの計画」であると感じてもらえる工夫が必要である。 例えば文字を大きくする、表紙やタイトルにルビを振る、やさしい日本語を使う、二次元バーコードから音声で内容を聞けるようにするなど、様々な方法が考えられる。

発言者	内　容
神田委員	全ての文章を変えることは難しいと思うが、小学校高学年程度の子どもが読んでも分かるような言葉を意識しても良いのでは。例えば、印刷物とは別に、子どもにも分かる簡易版をデータで用意する方法も考えられる。
林委員	同じく、別バージョンとして、もう少し要約した、誰もが分かりやすいものがあると良いと感じた。 質問が２点ある。一つは、「暮らしを支えるサービスの必要性」について、２０４０年度に介護サービス総給付費が増加するとされているが、これは高齢者が増え、介護サービスを必要とする人が増えることを示しているのか。健康寿命を延ばしていくことも重要であり、この数値が何を意味しているのか伺いたい。 もう一つは、「瀬戸らしいダイバーシティ」の中で、「ツクリテ」と「やきもの作家」を分けて記載している点である。やきもの作家もツクリテに含まれると思うが、瀬戸らしさを強く示すために分けているのか。
事務局	介護サービス総給付費については、今後、高齢者の増加に伴い、介護を必要とする方が増加する一方で、２０４０年には生産年齢人口が減少し、支える側が少なくなる。そのような状況を踏まえ、持続可能なまちにしていく必要があることを表現している。 「ツクリテ」と「やきもの作家」については、やきもの作家も広い意味ではツクリテに含まれるが、ここでは、やきもの作家と、ガラス工芸なども含めたその他のツクリテを意識し、あえて別の表現としている。
伊藤委員	基本構想は、全体として尖った内容でありながら、瀬戸らしさが表現されており、非常によく取りまとめられている。市民にとっては、一見して理解しにくい部分もあるかもしれないが、瀬戸も時代に合わせて変化し、新しいものが次々と生まれるまちであってほしいと考えており、この方向性に自信を持って進めるべきである。 ９月にリニューアルオープンした瀬戸市の図書館についても、瀬戸の魅力や歴史、アートなどを残した形となっており、その土地が持つものを大切にする姿勢に感銘を受けた。全国一律のまちづくりではなく、その土地の記憶に基づきながら未来を目指すことが重要であり、それが基本構想の役割でもあると考えている。今回の案は、課題を認識しつつ、瀬戸らしい将来の方向性を示している。市民にも分かりやすく伝えながら、「この方向で進む」というビジョンを明確に打ち出していってほしい。 全体として、今後に期待を感じる、非常にワクワクする基本構想となっていると感じている。
吉澤委員	将来像のページの前にある「あなたは２０４０年の瀬戸にどんな景色を思い描きますか」というページは、自由に何でも書いたり描いたりできるイメージなのか。
事務局	基本的には余白として捉えており、自由に思い描いたり、書き込んだりしていただくことを想定している。
吉澤委員	完全に自由に「何か描いてください」と言われるだけでは、実際には何も書かない方も多いと思う。何らかの導線やきっかけを設けるなど、書きやすくする工夫があると良いのでは。一方で、こちらから答えを固定しないという考え方は非常に良いと思う。 また、「まちの仕組みを整える」や「賢く縮む」という考え方には共感する。 その上で、「次世代中心デザイン」のように、現在の世代だけでなく、次の世代にとって何が良いのかという視点を意思決定の中に入れることも重要ではないか。

発言者	内　容
吉澤委員	施設や仕組みを縮小するという意思決定は、現在の世代には受け入れられにくい場合もある。その中で、次の世代のために何を残すのかという視点を加えると、「賢く縮む」という考え方もより理解しやすくなると思う。
蔵地委員	今回初めて参加したが、資料を読んで、これが実現すれば瀬戸は本当に素晴らしいまちになるという、ワクワク感を感じた。 一方、一般市民の立場から見ると、少し抽象的な内容が多いと感じる。一つでも二つでも、「例えばこのようなことを目指している」と具体的にイメージできるものがあると分かりやすいのではないか。 瀬戸らしさについても、個人的には他の市町村にはない、どこかノスタルジックな雰囲気が魅力だと感じている。そのような具体例があると、市民にも伝わりやすくなるのでは。
梅村委員	パブリックコメントに示す資料としては、現在の内容で非常に良いと思う。 ただ、一般の方はこれまでの議論の経過を踏まえずに資料を見るため、分かりにくい部分があることも確かである。自分は産業の立場から参加しているため、地域産業との関わりや取組などをもっと盛り込んでほしいという思いもある。 一方で、それを基本構想に書くのか、パブリックコメントのQ＆Aなどで補足するのか、基本計画や具体的な施策で示すのかについては整理が必要である。段階に応じて、これまで審議会で議論してきた具体的な内容が市民にも分かるようにできると良い。
堀部委員	昨日追加で送付されたデザインイメージについて確認したい。 参考資料１のデザイン案は、実際の冊子の見開きにそのまま入るというイメージなのか。
事務局	基本的には、見開きで将来像を大胆に表現することを考えている。参考資料１では縦書きとなっているが、その点を含め、まだ検討段階である。
堀部委員	これまでの資料は左から右へ読む構成だったため、途中で縦書きになると視線の流れがどうなるのか気になった。 複数の案の中では、タイトルが最初に目に入り、その周囲に絵が広がっているものが分かりやすいと感じた。また、強い色よりも、少し淡い色合いの方が全体の雰囲気には合うのではないか。
野々垣委員	２点ある。一つは、色、レイアウト、文字の大きさなど、今回示された基本構想のどこまでが決定しているのかが気になった。 もう一つは、基本構想と基本計画の関係である。基本構想だけを見る場面があるのであれば、基本構想とは、市の長期的な方向性を示すものであり、抽象度が高いものだということが分かるページを基本構想側にも入れた方が良い。 市民から、「ホームページに公表している資料を見ると、かなり抽象的である」と言われることもある。しかし、そもそも基本構想は大きな方向性を示し、その下に基本計画があって具体的な内容につながっていくものだと思う。その全体像が分かるようにすると、読み手にも理解しやすくなるのではないか。 誰が、どのような場面で読む冊子なのかという視点も必要だと思う。第一印象としては少し文字が多いと感じた。

発言者	内　容
神田委員	全市民を対象としたときに、最後まで全て読んで内容を理解できる方がどれくらいいるのかと考えると、もう少し文字を減らしても、込められている思いは伝えられるのではないか。 メインとなる文章は、多くの市民が「読んでみよう」と思える分量とし、詳しく知りたい方には補足情報につなげるような構成も考えられる。 また、基本構想と基本計画について、「この部分が基本計画のここにつながる」と分かるようにすると、２冊をあわせて見たときに理解しやすくなると思う。
事務局	冊子全体の色味やデザインは、今回の議論を踏まえて引き続き検討する。「混ざって生まれる。化学変化がめぐるまち」を表現するデザインについてもまだ確定しておらず、視線の流れや全体のバランスも含めて調整していきたい。
石川会長	これまでの総合計画と比較すると、今回はかなり方向を変えたという印象を持っている。その中で、皆さんから様々なご意見をいただき、非常に面白く、想像力をかき立てる基本構想になったと感じている。 特に、「混ざって生まれる。化学変化がめぐるまち」という将来像は、瀬戸ならではのものであり、これからの瀬戸にとって必要なフレーズだと思う。 一方、多くの自治体の基本構想には土地利用の考え方が入っている。今回、具体的な土地利用は基本計画に入れていると思うが、自然など守るべきものを守るという視点も必要である。２０４０年を見据える基本構想の中で、土地利用をどのように位置付けているのか伺いたい。
事務局	基本構想の「まちのかたちを整える」においては、第６次総合計画における土地利用の考え方を踏まえ、「歴史や文化、豊かな自然環境を大切にしながら、鉄道や高速道路などの交通利便性を生かし、鉄道駅などの拠点を中心に、暮らしに必要な機能や住まいが適切にまとまるまちづくりを進める」という、２０４０年に向けた大きな方向性を示している。 その上で、人が集まり交流する拠点と、安全・安心で快適に暮らせる住環境を形成し、将来にわたって持続可能な土地利用を目指す考え方である。 土地利用図については基本計画に掲載し、現在改定中の都市計画マスタープランと整合を図っていくことを考えている。
石川会長	土地利用は、すぐに変えるべきものばかりではなく、長期にわたって守るべきところ、変えていくべきところがある。 基本構想は市の最上位計画として長期的な方向性を示し、その下に各個別計画が位置付けられるため、土地利用についても、個別計画の大元となる柱が分かるようにしていただきたい。
副市長	会長の指摘はもっともである。 令和９年度を始期とする次期都市計画マスタープランにおいても、今回の基本構想を意識して改訂作業を進めている。 各分野の個別計画は基本構想を踏まえて策定されることから、基本構想には、都市計画や土地利用の根本となる考え方を、抽象的であっても一つの柱として示す必要があり、それにより、基本構想と個別計画とのつながりも明確になるのではないか。

発言者	内　容
副市長	一方、すでに子どもたちがＡＩを活用する時代であることを踏まえ、２０４０年を見据えた計画として、やきものや「化学変化」といった瀬戸らしさに加え、テクノロジーの視点をより強く盛り込むことで、将来に向けた計画であることが一層明確になると考えるが、浦田委員に見解を伺いたい。
浦田委員	前回気になっていた、２０４０年を見据えた社会の変化、瀬戸の強み、目指す方向性、４つの要素のつながりについては、今回は非常に良い形で整理されていると感じた。 テクノロジーについても、「新たな価値の創出」が具体的に何を意味するのか、社会変化の中にテクノロジーがどのように入ってくるのかは重要だと考える。 基本構想の中に具体的に書き込むことは難しいかもしれないが、実際には大きな影響を受ける部分である。むしろ、基本構想で示した未来の変化を、基本計画の具体的な取組へどのようにつなぐのかが重要なのではないか。
石川会長	ＡＩの普及などにより、これまでとは大きく異なる新しい時代を迎えることになると思う。うまく活用すれば大きな可能性がある一方、使い方によっては脅威にもなり得る。その両面を踏まえ、基本構想の中でどのように捉えるのかを検討してほしい。 本日の意見を踏まえ、パブリックコメントの実施に向けて、基本構想の修正をお願いする。
３　報告事項 ⑴　基本計画　構成イメージについて	
事務局	（資料２の要点を説明）
石川会長	基本計画については、本審議会では報告事項となるが、ご意見をいただきたい。
鷲見委員	基本構想と基本計画の関連性を、もう少し分かりやすく示しても良いのでは。 例えば、基本構想の内容が基本計画のどの部分につながっているのかを示すなど、市民が両者を行き来しながら読めるようにすると理解しやすい。 また、重点パッケージについても、先ほど基本構想で議論したＡＩなど２０４０年に向けた社会変化や、防犯・防災、観光、産業、教育などの視点を、もう少し盛り込んでも良いのではないか。
伊藤委員	３点ある。１点目は、産業・観光についてである。小さな企業やツクリテが活動できる拠点のようなものを、もう少し明確に位置付けても良いのでは。 東京で開催された瀬戸市のイベントでも、「瀬戸焼を海外向けに販売するＥＣサイトをつくれないか」と考えている方がいた。そのような新しいことを始めたい人が集まり、作業したり議論したりできる場所があると良い。 一方、大規模なスタートアップを瀬戸だけで育てることは難しいため、東京や名古屋、起業の専門家などにつながることのできる機能も必要である。 ２点目は都市整備についてである。新瀬戸駅周辺と尾張瀬戸駅周辺の役割分担が分かりにくいと感じる。 尾張瀬戸駅周辺については、やきものを体験できる場所なども生かしながら、観光の拠点としてより戦略的に位置付ける一方、新瀬戸駅周辺などには若者や大人が集まれる場所がもう少しあっても良いのではないか。

発言者	内　容
伊藤委員	３点目は子ども・子育てについてである。瀬戸ならではのやきもの教育をもっと発信しても良い。学校の窯を、使っていない時間に大人も利用できるようにするなど、教育・子育てと瀬戸らしさを組み合わせた取組も考えられる。 また、行政経営にＡＸが位置付けられていることは非常に先進的であり、ＡＩによって産業全体が変わっていく中で、行政から進めていく姿勢は重要なのではないか。
林委員	健康福祉分野の「家族と暮らしている障害者の割合」を現状値以上とする指標について、地域で暮らすことを重視する意図は理解できる一方、「家族が面倒を見ること」を求めているようにも受け取られかねない。 一人暮らしやシェアハウスなど様々な暮らし方があり、障害者の自立にも様々な形がある。「家族と暮らしている割合」を高めることが目標として適切なのか、「自立して暮らす障害者の割合」なども含め、指標のあり方を改めて検討してほしい。
神田委員	何を指標とするかは、非常に重要である。 「障害者の経済的自立の支援」についても、自立には様々な側面があるため、あえて「経済的」と限定する必要があるのか検討してほしい。 また、「親子がともに成長できる環境づくり」については、安心できる環境があってこそ成長につながるため、「安心」という要素も重要だと思う。 「多様な価値観を認め合う」という表現も、何を意味しているのか分かりにくい面がある。「人権」や「人の尊厳」など、大切にしているものが何か、伝わりやすい表現も検討してはどうか。 地域共創・多様性分野の「消費生活相談件数」「犯罪認知件数」についても、この分野を測る指標として適切か疑問がある。
吉澤委員	重点パッケージで、市民だけでなく市外の方が関わることが示されている点は良いと感じた。 一方、基本構想や基本計画の前半では、市外の方との関わりが見えにくくなっているように感じる。地域外の方も瀬戸の多様性に含まれることが分かるようにすると良い。 また、産業・観光の指標として「観光消費額」が設定されているが、瀬戸市観光推進指針の「量から質へ」という考え方との整合も確認してほしい。
野々垣委員	尾張瀬戸駅周辺の「土地の高度利用を促進する」という表現について、建物の高層化を意味するのか、土地利用の密度を高めることなのか、何を意味するのか分かりにくい。受け止め方が変わるため、もう少し分かりやすく示した方が良いと感じた。 また、基本構想では、昔ながらの町並みや１０００年以上の歴史を瀬戸の強みとしている一方、土地利用のところでは、今あるものをどのように残すのかという視点があまり見えない。新しいものをつくるだけでなく、今ある町並みや歴史的な環境をどのように残すのかという視点も、都市整備に入れる必要があるのではないか。
堀部委員	職員共通の基本姿勢として意識する「デザイン思考」の考えは非常に良い。特に「作りながら考える」という姿勢は重要であり、この４つの基本姿勢はもっと大きく打ち出しても良いのではないか。 また、９つの政策分野には、子ども・子育てと教育・学びなど、分野間で連動するものも多い。行政は縦割りになりやすいため、横につなぐ仕組みが必要であり、それが重点パッケージの役割でもあると感じた。

発言者	内　容
堀部委員	学校についても、これからは子どもだけが学ぶ施設ではなく、大人や高齢者が学ぶ場にもなり得る。一方、子どもの安全・安心を確保することも必要である。 また、ＤＸやＡＸなどを活用しながら、市職員が働きやすい環境を整えることも重要である。計画については、紙面だけで伝えるのではなく、様々な機会を通じて説明や対話を重ね、市民に浸透させていくことも大切なのではないか。
梅村委員	産業・観光の指標について、もう少し新しい視点があっても良いのでは。 例えば、どれだけ新しい企業や産業が生まれたのかなど、新規事業や起業に関する指標を設定することも考えられる。 「企業の生産性向上と市民の雇用の創出」は重要だが、それをどのように実現するのかという部分で、ＡＩの活用なども含めた新しい取組や、その成果を測る指標を設定すると良いのではないか。
水谷委員	会議中に、瀬戸市の人口について超長期的な推計グラフを簡易的に作成した。正確な推計は改めて行う必要があるが、２０４０年では人口減少が進んだ程度に見えても、２１００年、２１２５年まで見ると現在の３分の１程度になる可能性がある。 そのような超長期的な人口減少を踏まえ、今何をしておくべきなのか、今後１０年に何をしておくべきなのかを考えることが重要である。 また、「化学変化」を起こすためには、「守り」や「基盤」も重要である。福祉やインフラなど、暮らしを支える基盤があってこそ、新しいことに挑戦できる。その関係がうまく示されると、基本構想と基本計画のつながりも分かりやすくなるのでは。
鷲見委員	重点パッケージの「『稼げる』地域・人への発展・成長」という表現について、「稼ぐ」「成長」だけでなく、別の価値観も含めた言葉を検討しても良いのでは。 保育士や教員など、「稼げる」という言葉だけでは価値を表現できない仕事もある。生きがいやウェルビーイング、地域で活躍し、自分の存在意義を感じられることも重要である。 「稼げる」という視点は必要だが、それ以外の大切な仕事を置き去りにしているように受け取られない表現を検討してほしい。
蔵地委員	産業や働く場所が安定しなければ、人は集まりにくいと考える。ツクリテや企業が集まり、新しい企業が生まれるまちという方向性を強く打ち出してほしい。 また、若い人が集まる観光という視点も重要であり、アニメなど、今の時代に合った観光についても検討できると良いのでは。
石川会長	最後に私から申し上げたい。 まず、指標の設定は非常に重要である。現状値と目標値について、５％程度向上させるものや現状維持とするものがあるが、どのような考え方で設定しているのかが分かりにくい。 数値が継続的に低下しているため、現状を維持すること自体が高い目標となる場合もある。時系列的な推移を踏まえ、目標値の考え方を整理する必要がある。政策体系についても、「政策」の中に「政策の方向性」がある構成には少し違和感がある。 限られた予算や人材を投入し、事業を実施し、成果につなげていくというロジックモデルの考え方で整理すると分かりやすくなるのではないか。

発言者	内　容
石川会長	また、今回、基本計画を４年間とし、具体的な事業は個別計画や各年度の予算に委ねるなど、これまでの総合計画から仕組みを大きく変えている。 柔軟に見直していくことは重要だが、進行管理をしっかり行わなければ、本当に目指す方向へ進んでいるのか分からなくなる。ＰＤＣＡのチェックから次のアクションへ、どのようにつなげるのかという仕組みを十分に検討してほしい。 最後に、超長期では人口が大幅に減少する可能性がある。人口減少を前提としつつも、どこかで安定させるという視点を持ち、１００年後の世代も幸せに暮らせる地域を目指して、今何をすべきなのかを考える必要がある。 その大きな流れの中で、様々な「化学変化」を起こしながら新しい時代を迎えるという考え方で、基本構想と基本計画の策定作業を進めていただきたい。
４　その他	
事務局	（以下２点について報告） ①本日の審議会以降のスケジュールについて ②８月２７日（木）開催の関係人口創出イベント結果について
吉澤委員	イベントについては、市役所の方に準備いただき、大変盛況な取組になったと思う。 新しい視点を取り入れ、首都圏との新たな流れをつくることを目的に企画したが、今後もこのような取組に参加したいという意向を９割以上の方に示していただいた。 単に観光で訪れてもらうだけではなく、地域の人とどのように関係性をつくっていくのかを考える上でも、こうした取組を継続し、今後につながる仕組みをつくることが重要だと思う。
林委員	委員の意見だけでなく、市民の皆さんの意見をいただくことが大切である。 パブリックコメントについて、実施していることや意見を出すことができることを知らないまま終わる方も多いと思う。どのように発信し、多くの方に知っていただくのかが重要である。
石川会長	本日の議論では、基本構想や基本計画を、様々な方が見て理解できるようにすることが共通した意見としてあった。 冊子だけでなく様々な媒体を活用することに加え、文字の大きさや字体など、ユニバーサルデザインの観点にも配慮する必要がある。 計画が完成してから考えるのではなく、どのように市民へ伝えていくかについても、今の段階から準備いただきたい。 本日の議事は以上とし、進行を事務局にお返しする。
事務局	石川会長、委員の皆様には、長時間にわたり活発なご議論をいただき感謝申し上げる。いただいたご意見を参考にしながら、より良い計画となるよう検討を進めたい。 次回、第７回審議会は１１月１１日（水）午後から開催する予定である。次回が最終回となる予定であり、パブリックコメント等の結果と、それを踏まえた計画内容について最終的な確認をお願いする予定である。 引き続き、計画策定に向けてお力添えをお願いしたい。
５　閉会	

以上